

「確かな学力の定着・向上につながる学びあえる集団づくり」

～主体的・対話的で深い学びを意識した授業を通して～

I 研究内容

1 研究内容

(1) 授業づくり，授業改善

- ・授業の構造化
- ・板書について
- ・ノート指導
- ・「主体的・対話的で深い学び」について授業方法

(2) 学級づくり，集団づくり

- ・Q-U検査とK-13法の実施
- ・あいさつ
- ・学習規律
- ・授業におけるルール

(3) 保護者，地域住民との連携

- ・松小かがやきノート
(方法・家庭からのコメント等も含めて)

2 研究方法

(1) 主体的・対話的で深い学びについての研修

- ア 講師を招いての理論研究
- イ 授業研究会への参加（確かな学力育成プロジェクト）

(2) 研究授業（1本）

(3) 一人一実践

3 具体的な取り組み

(1) 実態把握

- ・年間2回のQ-U検査と分析

(2) 主体的・対話的で深い学びの授業研究

- ・中村弘和指導主事による「コロナ禍における実践方法」について講義
- ・ホワイトボード，思考ツールの活用による授業実践

(3) 家庭学習への取り組み

- ・学年の実態に応じた「スタンバイ学習」の導入
- ・「家庭学習振り返りの日」に合わせた家庭との連携
- ・管理職を含めた励ましのコメントの記入

(4) 授業実践

- ・第1学年 鈴木 仁美 教諭 算数科 「ひきざん」
- ・第2学年 中村 悦子 教諭 道徳科 「ありがとうはだれが言う？」
- ・第3学年 渡邊 皓 教諭 道徳科 「ドッジボール大会」
- ・第4学年 岡村 澄人 教諭 道徳科 「絵はがきと切手」
- ・第5学年 黒瀬 貴広 教諭 国語科 「あなたは、どう考える」
- ・第6学年 岩下 和子 教諭 道徳科 「うばわれた自由」
- ・教務主任 古屋 岳治 教諭 理科 「物の重さをくらべよう」

※予定していた研究授業は中止した。

II 成果と課題

1 成果

- (1) コロナ禍で模索状態ではあったが、研究主題を意識し、教職員が同じ方向を向いて研究できた。
- (2) 講師を招いての学習会は、「コロナ禍でできることの強化」「思考ツールの活用」について知ることができた。教職員が共通理解し、同じ歩調で指導に当たるための土台をつくる上で大変有効であった。
- (3) 学習規律や家庭学習の在り方について共通理解を図り進めたことにより、児童への浸透と質の向上を図ることができた。

2 課題

- (1) 一人一実践では、教師の指導法や今回取り入れようとしたポイントが、児童の力を高める上で有効であったかの視点ですと、今後の授業の充実に生かされる。
- (2) 校内研究の時間が短くなったが、その短い時間を有効活用するか考える必要がある。回を重ねるごとに指導力を高めることに生かせる研究にしていきたい。
- (3) 各部会で確認したこと、作り上げたことを今後の実践に生かしていくことが必要である。

(研究主任 岡村澄人)